ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

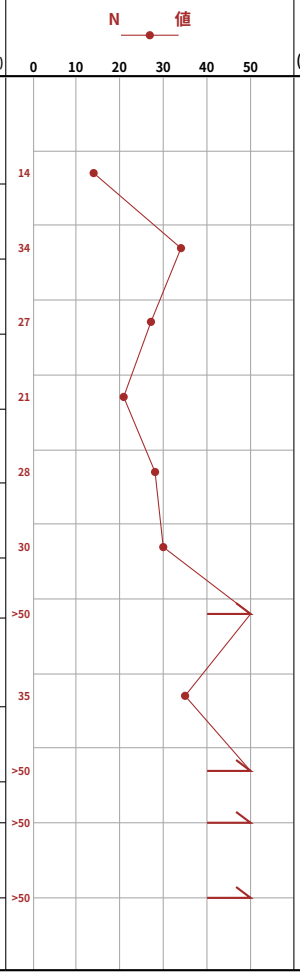
シートNO.

ボーリング名	NO.2		調査位置									北　緯	36 ° 54 ' 34.0000 "
発 注 機 関	栃木県日光土木事務所						調査期間	2008-01-18 ～ 2008-01-22				東　経	139 ° 42 ' 03.0000 "
調 査 業 者 名				主任技師			現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者			ボーリング責任者	
孔 口 標 高	90.96 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 30.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具		
総 掘 進 長	11.00 m								エンジン		ポ ン プ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
					盛土	暗褐-褐灰	緩い	らい	上部10cm有機質シルトを混入。以下径10-30mmの角礫が混じる砂よりなる。ところどころに、コンクリート塊が混じる。		07/09 0.75
	90.26	0.70	0.70								
1					砂礫 (GS)	暗褐灰	中ぐらい		径10-30mmの角礫を主体とする砂礫で、マトリクッスは粗砂よりなる。深度1.50-1.90m間、150mm程の転石が占める。下部に従い、粘土の混入が多くなる。		
2											
3	87.46	2.80	3.50								01/18
4					粘土混じり砂礫 (GS-C)	暗褐灰	中ぐらい		径10-30mmの角礫を主体とする砂礫で、マトリックスは粘土混じりの粗砂よりなる。深度3.70-3.85m間、礫主体。深度3.85-4.00m間、転石が占めている。深度6.90-7.15m間、礫ならびに転石で占められている。深度8.45m以深、礫の占有率が高く、礫質土を呈す。		
5											
6											
7											
8											01/19
9	81.56	5.90	9.40								
10	80.76	0.80	10.20		流紋岩 (Ry)	暗青灰			深度9.40-9.60m間、砂礫状コアを呈す。深度9.60-9.75m間、棒状コアを呈するも、粘土化した部位を挟む。深度9.75-10.20m間、砂礫状コアが多く、最長5cmの棒状コア。		
11	79.96	0.80	11.00		花崗岩 (Gr)	暗灰			最長12cmの棒状コアを呈す。深度10.20-10.45m間、砂状に風化した部位を挟む。深度10.55m、10.63m、10.85-11.00m間、砂状に風化した部位をフィルム状に挟んでいる。		01/21

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	4	4	6	14／30	14
1.45					
2.15	9	16	9	34／30	34
2.45					
3.15	6	8	13	27／30	27
3.45					
4.15	8	7	6	21／30	21
4.45					
5.15	8	10	10	28／30	28
5.45					
6.15	7	11	12	30／30	30
6.45					
7.15	50			50／10	>50
7.25					
8.15	9	13	13	35／30	35
8.45					
9.15	16	19	15／9	50／29	>50
9.44	50／0			50／0	
10.00					>50
10.00					
11.00	50／0			50／0	>50
11.00					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日